

Area Geogr. Manshuria bor.

I have examined only one specimen collected by Mr. Satô. This species is characterized by its petals having almost acute lobes.

1) ヒロハイトハコベ 本種は満洲北朝鮮方面に極めて稀に生育するものであつて、習性の点から云へば、イトハコベやマンシウフスマに近縁の種と考へられる。イトハコベに比し、全草がより剛直で葉潤く花は決して單生せず聚繖花序をなしてゐる。新種と考へ *Stellaria neo-palustris* Kitagawa と命ずる。満洲に於ては奉天附近渾河畔に屢々見られ、又安奉沿線の祁家堡で採つた記憶がある。

2) ホクシイトハコベ 古く矢部吉禎博士や彭世芳氏が、華北河北省百花山頂で採集された一種で *Stellaria graminea* Linnaeus に当てられてゐたものである。然しよく観察すれば、歐洲産のものとは全く異り、草丈低く、花序はすべて側生であり花の構造も相違してゐる。*Stellaria patentifolia* Kitagawa と名付けることにした。

3) コウアンイトハコベ 現在尙満洲(奉天)に残留されてゐる佐藤潤平氏が、大興安嶺の伊列克特で発見された新種で *Stellaria palustris* Ehrhart 系のものと見られるが、花卉の裂片が鋭い点、花序が頂生せず側生する点等でこれと相異なる。新たに *Stellaria hsinganensis* Kitagawa と命名して置く。

○植物の科をどうやつて覺えたか。 “自分が土佐の國で最初に見たのが、Chamber の百科全書の植物綱目(文部省譯訳出版)と田中芳男氏の「埜甘爾列氏植物自然分科表」(博物局出版)であつた。其の後、長沼小一郎先生が土佐に赴任して來られて Bentley の Manual of Botany を持つて居られた。先生は實際の植物はあまり知つておられなかつたが、この本の科の特徴を書いた部分を訳して厚さ 2 寸許のノートにしていられしたので、これを見せてもらつた。高知中学に Loudon の Encyclopedia of Plants があつたし、この学校が師範になつてから Green and Congdon の Class Book of Botany がそなえられて、これらを参考にした。当時これらによつて植物の分類法を覚えていつたのである。”

○大きい標本荷物を送つた話 “田代善太郎君とは九州を 6 年間も一緒に採集した。明治 40 年頃、同君と肥前の川棚(大村灣の北岸)に行つた所、奥の丘の裸地の土にイワヒバが沢山あるのを発見し、縦横 1 mm もある木箱を作つてこれに一杯採集して、東京に送つた。東京では何年間もその儘にとつておいて、必要な時に水をやつて活き返らせて用いたものであつた。明治 40 年頃日光で長さ 5 尺位の櫻の枝を採集して、長さ 5 尺幅 2 尺位の木箱につめて送らせた。当時はこんな箱を何の苦もなく送ることが出来て便利だつた。”

(牧野先生一夕話 VI 及 VII—文責在編輯)